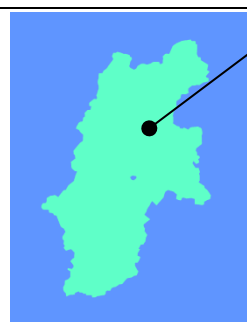


《神科小学校おたすけっ十有志隊》 上田市立神科小学校ボランティア支援事業



- グループ概要

結成年月	H26. 4
構成員数	44名
50歳以上	37名
- 代表者 関 和弘
(セキ カズヒロ)
- 担当者 関 和弘
- 住 所 上田市

- (1) 高齢者の生きがい・健康づくりを拡げるための活動
- (3) 子ども世代や若年層を対象とした交流・支援
- (4) まちづくり・地域文化伝承活動

これまでの活動内容

神科小学校内に設置されたボランティアルームを主な活動拠点とし、同小学校の2時限目授業終了後の休み時間を利用して児童との交流を行うほか、学校からの要望に応じて学習支援や環境整備等の活動を行っている。

昨年度は地域との交流を広めるため、地元の「砥石米山城まつり」へ参加し、組み立て式のピザ釜を使ったピザ作り体験を通じて地元児童らとの交流を図った。

事業の目的

地域と学校とでパートナーシップを結び、学校からの要請を受けて、地域住民で子どもたちの様々な活動の支援を行う。それによって、子どもたちとだけではなく、地域住民同士の交流や親睦を図り、明るく安全・安心で異世代交流が盛んな地域づくりを進める。

今年度の事業計画

1. 26年度以降実施してきた学校支援の活動を引き続き行う。
2. おたすけっ十有志隊が主体となり、学校の休み時間を使ったスポーツ大会の開催
3. 学習支援活動の充実を図る（ドリルの丸つけや学習の助言）
4. 「はし使い名人認定」事業の実施
5. 地域のお祭り等でピザ釜を使った交流活動の実施
6. お手玉の制作・販売
7. 講座等参加を通じたボランティアの資質向上

3年目の事業計画

1. 26年度以降実施してきた事業を継続しながら、ボランティア間のコミュニケーションを図り活動の

幅を広げていく。

2. 学校支援を充実させていくために、今まで以上に学校職員とボランティア間の交流を深めていく。
(流しそうめん大会、お茶会などにより)

事業実施により地域に期待される効果

1. 地域を愛する子どもたちが増えていく。
2. 安心・安全で異世代交流が盛んな地域づくりができる。
3. ボランティアが学習支援に入ることにより、先生と子どもたちの時間が充実したものになり、信頼関係がより一層深まる。
4. 児童がボランティアルームを活用することで、居場所となったりリラックスしたりすることができ、子どもたちの笑顔が増える。
5. 地域の大人たちが、学校支援活動に参加することにより、張り合いになり、また子どもたちからパワーを与えてもらうことで健康でいられる。
6. ボランティア間の交流により、今まで知らなかった人たちと知り合うことができたり、お互いのスキル交換ができる。